

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970900161		
法人名	医療法人忠友会		
事業所名	グループホーム武田の里		
所在地	荏崎市神山町北宮地8番地		
自己評価作成日	平成24年11月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人として、診療所・デイケア・訪問介護、看護・居宅支援事業所などを併設しています。自然に囲まれた環境のため住宅が少なく、地域住民との交流は少ないですが、多機能な事業所としての特性を活かし、日々のケアにあたっています。利用者様の「その人らしさ」を大切に、安心してその人らしく生活できるような場所を目指し、職員が一体となって取り組んでいます。

事業所は釜無川を挟んだ対岸に七里ヶ岩が連なり、建物の裏はのどかな田畑が広がる新興住宅地の一角に位置している。敷地内には法人が運営する診療所、訪問看護、訪問介護、通所リハビリ、居宅介護支援の事業所が併設されている他、認知症対応型デイサービスで数名の通所利用者も受け入れている。医療、看護、リハビリなど事業所間の連携が取れている為、安心して過ごせる体制となっている。利用者の多くが年々レベルが低下して、職員の介助量が増す中、職員一同は「その人らしさを大切に」と温かな心で一人ひとりと向かい合い、利用者は落ち着いた日々を過ごされている。3か月毎に発行される事業所便りも細かな気配りがされた内容で、事業所の姿勢が滲んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム武田の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1F すみれ )	ユニット名( 2F さつき )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に運営理念を掲示すると共に定期的なミーティングなどを通じて、管理者・職員ともに理念を共有し、利用者がその人らしく暮らせるように支援している。	事業所内に運営理念を掲示すると共に定期的なミーティングなどを通じて、管理者・職員ともに理念を共有し、利用者がその人らしく暮らせるように支援している。	玄関内の壁に8項目の理念が掲げられている。毎月1回2フロア合同のミーティングで職員一同が振り返り、日々の実践に繋げている。	現在の理念は利用者向けに、生活の仕方を説明している文章に感じる。理念はケアの基本となるものである為、職員側の目指す事や姿勢を表現した文章への検討を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の住民との交流が難しい面もあるが、イベントへの参加や学生との交流の機会を設けることで、地域とのつながりを作っている。	近所の住民との交流が難しい面もあるが、イベントへの参加や学生との交流の機会を設けることで、地域とのつながりを作っている。	地域住民との交流が少ない地域である。散歩時も住民と会う事はほとんどない。韮崎市の福祉祭りに参加して園児や障害者と共に競技やゲームを楽しんだり、クリスマス時に韮崎高校の生徒の訪問があり歌やゲームを楽しむなど交流を図っている。	近くにある中学校や、高等学校に事業所訪問を提案し、その体験を通じ、若い世代が認知症への関心と理解がされると地域交流のすそ野が広がる。今後の課題として検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	韮崎市の認知症ネットワークや、認知症キャラバンメイトなどの活動に参加させていただき、入居者以外の認知症に関連した困りごとに迅速に対応できるようにしている。	韮崎市の認知症ネットワークや、認知症キャラバンメイトなどの活動に参加させていただき、入居者以外の認知症に関連した困りごとに迅速に対応できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	市の介護保険担当者や地域包括支援センターの方、民生委員にも協力していただき活動報告を行ったり、困難な事例の検討会などを開いている。	市の介護保険担当者や地域包括支援センターの方、民生委員にも協力していただき活動報告を行ったり、困難な事例の検討会などを開いている。	活動報告や入居状況などを報告している。災害時の避難や困難事例、疥癬罹患者の対応などの指導やアドバイスを受けた。家族より地域での認知症への理解を深めて欲しいとの要請で、ケアマネジャーがキャラバンメイトとして活動している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や地域包括支援センターにグループホーム便りを届けたり、研修会などの際に随時情報提供を行っている。市内・市外の他のグループホームの活動についての情報をいただいている。	市や地域包括支援センターにグループホーム便りを届けたり、研修会などの際に随時情報提供を行っている。市内・市外の他のグループホームの活動についての情報をいただいている。	行政も推進会議に参加している為、事業所の現状は理解している。包括より利用者の紹介を受けたり勉強会に参加している。市が、「徘徊SOSネットワーク」を立ち上げ、登録すると警察や消防で協力して迅速な対応が取れる体制が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことについて利用者・家族・スタッフに理解していただいております。拘束は行っていません。やむをえない場合に本人・家族同意のもとで行う取り決めはあるが、今のところ該当者はいない。	身体拘束をしないことについて利用者・家族・スタッフに理解していただいております。拘束は行っていません。やむをえない場合に本人・家族同意のもとで行う取り決めはあるが、今のところ該当者はいない。	拘束はしていない。精神的に不安定な利用者が他の利用者の居室に入出入りし、不穏行動をする時があり、居室住人の希望で住人が室外に出ている折は、居室に鍵を掛けている。職員の不適切な言葉使い時は職員同士で注意し合っている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員ともに虐待の防止に努めている。虐待につながりそうなケースに気づいたときは、話し合いを行ったり、地域包括支援センターなどに相談をするようにしている。	管理者・職員ともに虐待の防止に努めている。虐待につながりそうなケースに気づいたときは、話し合いを行ったり、地域包括支援センターなどに相談をするようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修に参加したり、利用者や家族に制度の説明や、相談会などのお知らせを行っているが、今のところ制度を活用したいという人はいない。	権利擁護についての研修に参加したり、利用者や家族に制度の説明や、相談会などのお知らせを行っているが、今のところ制度を活用したいという人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面上だけでなく、必ず口頭で契約内容を説明している。不安や疑問点については、その場で回答し、納得したうえで契約していただくように心がけている。	書面上だけでなく、必ず口頭で契約内容を説明している。不安や疑問点については、その場で回答し、納得したうえで契約していただくように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際などに意見や要望がないか尋ねている。直接言いつらい方のために、無記名で投書できる意見箱も設置している。	面会の際などに意見や要望がないか尋ねている。直接言いつらい方のために、無記名で投書できる意見箱も設置している。	推進会議や面会時に意見や要望を聞いている。投書箱への投かんはない。湯タンポの希望や薬の飲ませ方、散歩、加湿器の設置などケアに関する意見がある。必要な事、可能な事は迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務局・管理者・職員によるミーティングを行い、職員が意見を述べたり提案できる場を設けることで、運営に反映できるようにしている。	事務局・管理者・職員によるミーティングを行い、職員が意見を述べたり提案できる場を設けることで、運営に反映できるようにしている。	毎月の全体ミーティングで意見や要望を聞いている。職員数を増やして欲しい、食事のメニューや、花見など行事についての提案など多くの意見がある。意見は出し易い。必要な事はそれぞれ対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現況においては規定上の昇給が困難ではあるが、有給休暇などは取りやすい環境にある。研修への参加時などは勤務時間として扱うように配慮をしている。	現況においては規定上の昇給が困難ではあるが、有給休暇などは取りやすい環境にある。研修への参加時などは勤務時間として扱うように配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の予定について回覧などにより職員に伝えている。外部研修に行きづらい職員のために、ミーティング時などに内部研修なども取り入れている。	研修の予定について回覧などにより職員に伝えている。外部研修に行きづらい職員のために、ミーティング時などに内部研修なども取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の活動や県のグループホーム協会の活動などを通じ、同業者と交流する機会は多く設けている。	市の活動や県のグループホーム協会の活動などを通じ、同業者と交流する機会は多く設けている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に医師・管理者・介護支援専門員が本人の不安や要望についての相談に乗っている。生活習慣や、他サービス利用時の様子も確認しながら、安心して過ごせるように準備させていたがっている。	入居時に医師・管理者・介護支援専門員が本人の不安や要望についての相談に乗っている。生活習慣や、他サービス利用時の様子も確認しながら、安心して過ごせるように準備させていたがっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には本人だけではなく家族との話し合いの時間を設け、不安や要望を確認している。入居したあとも家族の状態に変化がないか、できるだけ把握できるように努めている。	入居の際には本人だけではなく家族との話し合いの時間を設け、不安や要望を確認している。入居したあとも家族の状態に変化がないか、できるだけ把握できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて隣接する診療所でのリハビリに参加できるようにしたり、居宅介護支援センターとも相談しながら適切な支援が行えるように努めている。	必要に応じて隣接する診療所でのリハビリに参加できるようにしたり、居宅介護支援センターとも相談しながら適切な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持っていただいたり、自身で行えることはしていただくようにしている。しかし重度化により困難な方も多い。	役割を持っていただいたり、自身で行えることはしていただくようにしている。しかし重度化により困難な方も多い。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・外泊の提案をして交流が途切れないようにしたり、通院時はできるだけ家族に付き添いをお願いし、本人の現在の状態を正しく把握していただけるように心がけている。	面会・外出・外泊の提案をして交流が途切れないようにしたり、通院時はできるだけ家族に付き添いをお願いし、本人の現在の状態を正しく把握していただけるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会もお願いしたり、馴染みの美容院や町内会の会合などにも継続して参加できるように支援している。	友人・知人の面会もお願いしたり、馴染みの美容院や町内会の会合などにも継続して参加できるように支援している。	利用者により面会頻度に大きな差があり、身内や友人が頻回に訪れて、馴染みの店や場所へ連れて行ったり、無尽会に迎えに来る人もいる。入居時利用者の趣味を確認して、折り紙や畑仕事など趣味の継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方と会話がしやすい座席配置を心がけている。利用者同士のコミュニケーションが難しい方は、職員が関わる時間を多く持つように心がけている。	仲の良い方と会話がしやすい座席配置を心がけている。利用者同士のコミュニケーションが難しい方は、職員が関わる時間を多く持つように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であっても機会があれば相談には応じられる。必要に応じて他サービス利用に係るサービス担当者会議にも出席している。	退居後であっても機会があれば相談には応じられる。必要に応じて他サービス利用に係るサービス担当者会議にも出席している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれに理想の暮らし方は違う為、一人ひとり会話を通じて確認している。それが難しい方については、家族に意見を求めたり、できるだけ本人の立場になって考えるようにしている。	それぞれに理想の暮らし方は違う為、一人ひとり会話を通じて確認している。それが難しい方については、家族に意見を求めたり、できるだけ本人の立場になって考えるようにしている。	意思や意向をしっかりとと言える利用者は少ない。表情や態度で意向を汲み取ったり、生活歴や家族からの情報で一人ひとりに合った支援に努めている。消灯時間が決めてない為、夜、読書で過ごしたり、テレビを見て過ごす利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や自宅周辺地域の環境などを把握している。他サービスを利用したことがあれば、その時の様子についても介護支援専門員などに確認をさせていただいている。	生活歴や自宅周辺地域の環境などを把握している。他サービスを利用したことがあれば、その時の様子についても介護支援専門員などに確認をさせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを活用して時間ごとの状態の変化を把握したり、各部屋に担当者を決めることで、より具体的に本人の現状が把握できるように努めている。	センター方式のシートを活用して時間ごとの状態の変化を把握したり、各部屋に担当者を決めることで、より具体的に本人の現状が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員との話し合いや、医師・理学療法士からの意見も求めながら、多角的に本人の状態を把握して介護計画を作成するようにしている。	本人・家族・職員との話し合いや、医師・理学療法士からの意見も求めながら、多角的に本人の状態を把握して介護計画を作成するようにしている。	利用開始時に担当者会議を開催する。必要な利用者には医師、リハビリスタッフ、看護師も参加して介護計画を作成する。3か月に1回修正をして家族に郵送で報告をする。状態変化時はその都度モニタリングをして計画の修正をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ごとに記録を作成し、参考になっている。重要な事柄については、連絡ファイルなどを利用しすべての職員が把握できるような形を取っている。	利用者一人ごとに記録を作成し、参考になっている。重要な事柄については、連絡ファイルなどを利用しすべての職員が把握できるような形を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	形式にとらわれず、他の事業所にも相談をしながら、本人にとってその時必要なことを優先して実践できるように心がけている。	形式にとらわれず、他の事業所にも相談をしながら、本人にとってその時必要なことを優先して実践できるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではないが、可能な限り本人をこれまで支えてきた地域資源との関係を失わないように支援している。	全員ではないが、可能な限り本人をこれまで支えてきた地域資源との関係を失わないように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ入居前のかかりつけ医に継続して診察していただき、こちらからも情報提供を行うように心がけている。	できるだけ入居前のかかりつけ医に継続して診察していただき、こちらからも情報提供を行うように心がけている。	家族対応で入居前のかかりつけ医の継続を基本としており、家族の都合の悪い折は職員が同行支援する。かかりつけ医のいなかった人や状態の変化時は、法人のクリニックで受診する事もある。受診後の情報は職員が共有している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日ではないが、看護師の資格を持った職員が体調観察している。緊急時は隣接する診療所の医師や看護師、訪問看護師にも協力していただき、迅速に対応している。	毎日ではないが、看護師の資格を持った職員が体調観察している。緊急時は隣接する診療所の医師や看護師、訪問看護師にも協力していただき、迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には様子の確認に伺ったり、病院の相談員と連絡を取り合っている。市の研修会などを通じて、病院の相談員との良好な関係を築いている。	入院時には様子の確認に伺ったり、病院の相談員と連絡を取り合っている。市の研修会などを通じて、病院の相談員との良好な関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針について同意をいただいている。方針として必ずターミナルケアを行うというわけではないが、重度化が進んで自然と終末期に合わせた対応になっている方もいる。その都度、本人にとって最善の方法を選んでいただくようにしている。	看取りに関する指針について同意をいただいている。方針として必ずターミナルケアを行うというわけではないが、重度化が進んで自然と終末期に合わせた対応になっている方もいる。その都度、本人にとって最善の方法を選んでいただくようにしている。	入居時に、重度化した折の方針を家族に確認している。機械浴が無い、胃ろう支援は困難などを説明して家族が判断する。看取り迄の希望があり、重度化してきた折は同意書をいただき、ターミナルプランを作成して支援している。昨年自然な形で終末を迎え、2名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急法の研修などに参加し、迅速に対応できるようにしている。また日中は隣接する診療所の医師・看護師にも協力していただいている。	応急法の研修などに参加し、迅速に対応できるようにしている。また日中は隣接する診療所の医師・看護師にも協力していただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力は難しいものの、年に2~3回防災訓練をおこなっている。	地域との協力は難しいものの、年に2~3回防災訓練をおこなっている。	年2~3回、消火訓練や避難訓練を行い、訓練後消防署に報告書を提出している。地域の協力が望めない為、夜間の災害には課題が多い。連絡網訓練はしていない。市より災害時に地域の高齢者を受け入れて欲しいと要望があった。	災害は何時発生するか判らない。日時を決めないでの連絡網訓練も必要である。推進会議時に地域の消防団の協力が得られるよう相談する事も検討して、災害時に備えるよう今後の対応を期待したい
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう言葉のかけ方に注意している。またプライバシーに関する書類は別室に保管すると共に、職員間で話題にする際には利用者のいない場所で行っている。	自尊心を傷つけないよう言葉のかけ方に注意している。またプライバシーに関する書類は別室に保管すると共に、職員間で話題にする際には利用者のいない場所で行っている。	人生の先輩として、尊厳ある言葉掛けや接し方に注意している。呼び方は姓を基本としているが、同姓の利用者には名前にさん、を付けたり希望する呼び方になっている。書類管理や守秘義務も理解、徹底されている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1F すみれ )	ユニット名( 2F さつき )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを強制することがないように、普段の生活やイベントなどへの参加に関しても可能な限り本人に選択していただくようにしている。	何かを強制することがないように、普段の生活やイベントなどへの参加に関しても可能な限り本人に選択していただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり生活習慣が違うため、起床や就寝などはできるだけその人のこれまでの生活ペースを保ちながら自由に過ごせるように支援している。	一人ひとり生活習慣が違うため、起床や就寝などはできるだけその人のこれまでの生活ペースを保ちながら自由に過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院を利用していただいたり、デイサービスの方と一緒に散髪をしてもらうなど配慮している。着たい服がある時には、家族に購入をお願いしている。	行きつけの美容院を利用していただいたり、デイサービスの方と一緒に散髪をもらうなど配慮している。着たい服がある時には、家族に購入をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望の品を行事食にしたり、キザミやトロミなどに対応しているほか、栄養摂取が困難になっている方についても好きだったものを用意している。準備や片付けはほとんどの方が難しく、ごく一部の方のみである。	利用者の希望の品を行事食にしたり、キザミやトロミなどに対応しているほか、栄養摂取が困難になっている方についても好きだったものを用意している。準備や片付けはほとんどの方が難しく、ごく一部の方のみである。	メニューは栄養士が作る。屋食はデイサービスで作り受け取りに行き、盛り付けを事業所です。ご飯と味噌汁、朝、夕、日曜日の食事は事業所で作り、出来る人は皮むきやテーブル拭きの作業に参加している。行事食を楽しむ時もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の栄養士に協力していただき献立を作ることで、バランスの良い食事の提供を心がけている。食事量、水分摂取量の記録を取り、受診の際には医師に診察の参考にしていただいている。	併設事業所の栄養士に協力していただき献立を作ることで、バランスの良い食事の提供を心がけている。食事量、水分摂取量の記録を取り、受診の際には医師に診察の参考にしていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや入れ歯の洗浄を促したり、必要な方には介助を行っている。	歯磨きや入れ歯の洗浄を促したり、必要な方には介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできるだけおむつは使用せず、パターンに合わせての誘導を行っている。夜間のトイレ回数が多い方などは、部屋にポータブルを設置し併用していただいている。	日中はできるだけおむつは使用せず、パターンに合わせての誘導を行っている。夜間のトイレ回数が多い方などは、部屋にポータブルを設置し併用していただいている。	声かけや誘導をして、日中はできる限りトイレでの排泄を支援している。自立で布パンツやおむつ使用の利用者も数名ずついる。夜間は自宅でポータブルトイレの利用者も居る。現状のレベルが維持、改善できるよう支援している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸作用のある飲食物の摂取を促したり、運動の機会を設けている。排便の有無を毎日チェックし、必要な方には内服による排便コントロールを行っている。	整腸作用のある飲食物の摂取を促したり、運動の機会を設けている。排便の有無を毎日チェックし、必要な方には内服による排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度化もあり全員が希望通りというのは難しい。平日は急な体調の変化に備えて、できるだけ隣接する診療所の医師がいる時間にさせていただきます。	重度化もあり全員が希望通りというのは難しい。平日は急な体調の変化に備えて、できるだけ隣接する診療所の医師がいる時間にさせていただきます。	週2回入浴することを基本としている。入浴を拒否する利用者には時間をずらして再度声かけをすると、喜んで入る事もある。体調管理の面から診療所の医師がいる時間帯に入浴している。皮膚疾患などで入浴回数を増やす時もある。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や体調に応じて自由に休んでいた だけのようにしている。夜間、寒い時には希望 に応じて湯たんぽや電気毛布も使用できる。	個々の希望や体調に応じて自由に休んでいた だけのようにしている。夜間、寒い時には希望 に応じて湯たんぽや電気毛布も使用できる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容に変更があった場合や、用法や副作用に特別な注意が必要な場合には、連絡ファイルを利用して職員全員が理解できるように努めている。	薬の内容に変更があった場合や、用法や副作用に特別な注意が必要な場合には、連絡ファイルを利用して職員全員が理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の活動の支援や、役割を持てるようにアプローチしているが、重度の方も多いため難しい部分もある。	趣味の活動の支援や、役割を持てるようにアプローチしているが、重度の方も多いため難しい部分もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から散歩や日光浴、ドライブなどを行っている。職員だけでの対応が難しい場合には、家族にも買い物や外食の機会を作っていたい	普段から散歩や日光浴、ドライブなどを行っている。職員だけでの対応が難しい場合には、家族にも買い物や外食の機会を作っていたい	季節や天候をみて出来る限り近辺の散歩に出たり、ウッドデッキでの外気浴をしている。利用者の希望で墓参りに職員が同行した事もある。外出行事としてハイジの森や季節の花見、かかし祭りなどに行った。家族の協力で外食、買い物などに出る利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方については自分のお金で買い物をするお手伝いもさせていただいているが、できない方も多いため頻繁ではない。	一部の方については自分のお金で買い物をするお手伝いもさせていただいているが、できない方も多いため頻繁ではない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それぞれ事情があるので全員は難しいが一部の方は自由に電話をしたり、遠方にいる家族と手紙のやり取りを行っている。	それぞれ事情があるので全員は難しいが一部の方は自由に電話をしたり、遠方にいる家族と手紙のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、イベント時の写真などを飾ったりすることで、楽しく過ごせるようにしている。	季節の花を飾ったり、イベント時の写真などを飾ったりすることで、楽しく過ごせるようにしている。	事業所は1.2階の2フロアで、建物内の建材には木が多く温い。フロアはゆったりと広く床暖房になっている。中央に食事用のテーブルと程よい位置にテレビやソファがあり一角がキッチンとなっている。ウッドデッキがあり続く庭も芝生で、車椅子の利用者にも心休まる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の基本設定はしているが、その時々で希望する場所で過ごしていただく事も自由である。	座席の基本設定はしているが、その時々で希望する場所で過ごしていただく事も自由である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団、趣味に使う道具などをできるだけ持ち込んでいただいて安心できる空間を作っている。	使い慣れた家具や布団、趣味に使う道具などをできるだけ持ち込んでいただいて安心できる空間を作っている。	ベッドとエアコン、クローゼットが設置されている。ベッドは利用者の状態に合わせて選べるよう、ギャチベッドと木製のベッドがある。利用者それぞれが必要な物や、使い慣れた品々を持参して自分らしい居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー環境で安全を確保しているほか、手すりなどを利用して、自立した動作ができるような環境を提供している。	バリアフリー環境で安全を確保しているほか、手すりなどを利用して、自立した動作ができるような環境を提供している。		